



1 台北国際大会 ブース出展&分科会開催報告

6月13日から17日まで、国際ロータリー年次大会が台北で開催されました。米山記念奨学会としては2004年の大阪、2012年のバンコク、2016年のソウルに続き「友愛の家」にブースを出展するとともに、2016年以来、10年ぶりに分科会を開催しました。今大会には地元・台湾の米山学友やよねやま親善大使らがブースに立ち、世界各国のロータリー会員に当事業のPRを行いました。その様子をご紹介します。

【6月13日～17日 ブース出展】

ブースには連日、多くのロータリー会員が足を運んでくださいました。ブースの外まで人があふれる時間帯もあり、大盛況となりました。台湾の米山学友とよねやま親善大使を中心に、来場いただいた方に対し、メッセージを書いたの記念撮影や世界地図へのピン刺し、今大会限定の記念バッジの贈呈を行いました。最終的には40か国以上の国と地域からブースにご来場いただいたのみならず、数多くのメッセージを残していただきました。多くの方のご来場に心から感謝いたします。



【6月12日 台湾米山学友会主催 歓迎懇親会】

台北国際大会の開会に先立ち、台湾米山学友会が歓迎懇親会を開催。日本からも多数のロータリー会員が集まったほか、インドネシア出身で、今年度から米山学友として4人目のガバナーとなるラスマナ センダリウスさん（1992-94/長岡西RC）や、分科会に登壇する4人の学友、よねやま親善大使らが参加し、総勢107人が出席しました。



【6月15日 分科会】

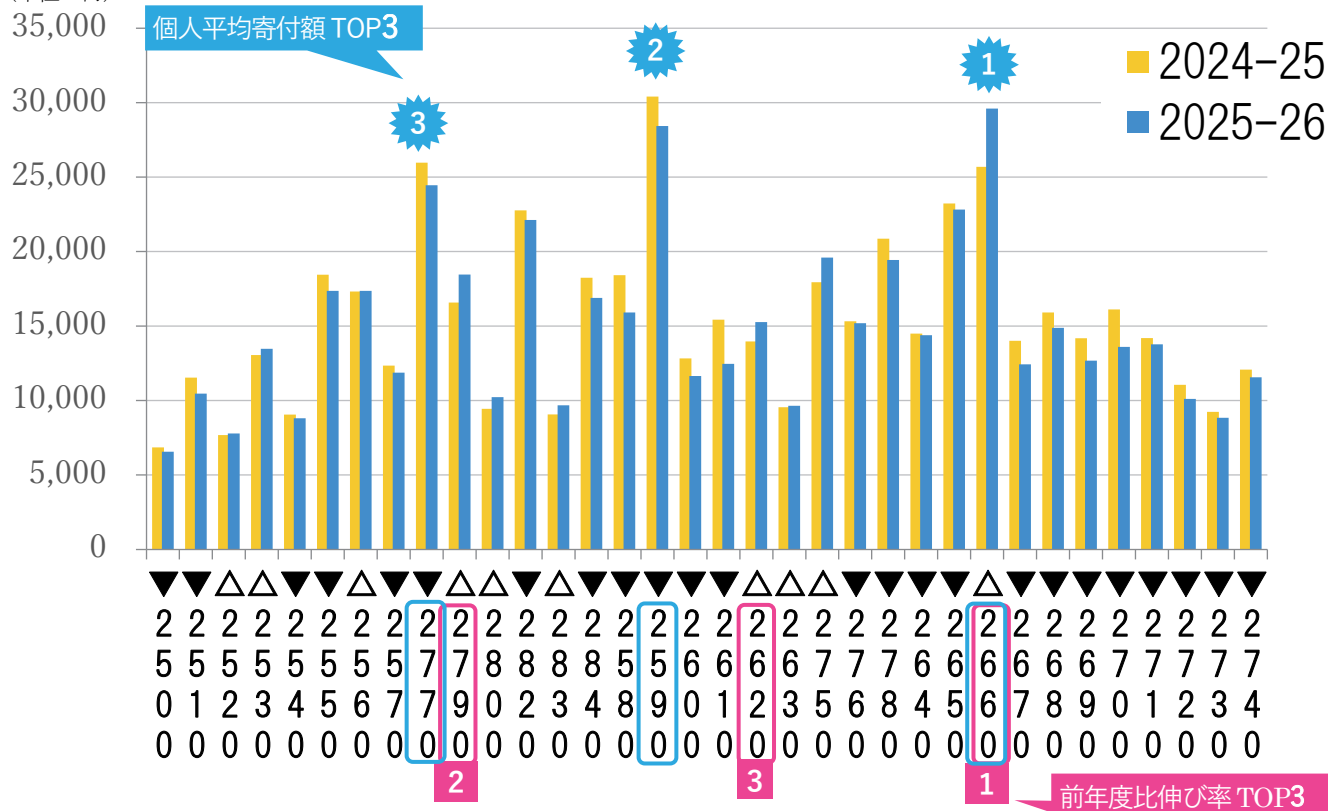
「会員と米山学友が支える永続的なつながり」というタイトルで、2016年以来、2度目となる分科会を開催しました。林岳毅さん（2000-01／札幌清田RC）、フィンティミーハンさん（2001-02／金沢みなとRC）、朴貞子さん（2006-08／岸和田RC）、バンバット トゥメンデルゲルさん（2014-15／大阪東RC）の4人が登壇。会場に参加したロータリー会員からは、「米山学友の話を聞いて、実際にどのような活動をしているのか理解できた」「新たな発見があった」といった感想が聞かれました。



2 2025-26 年度寄付金結果

2025-26年度の寄付金は約12億9,500万円となりました。前年度比2.7%減（普通寄付金:0.1%増、特別寄付金:3.9%減）、約3,500万円減少しました。寄付総額が13億円を下回るのは14年ぶりとなりますが、当年度予算に対しては約1,500万円上回ることができました。ご寄付いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。2026年度も引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

（単位：円）



個人平均寄付額 TOP3 【全国平均：15,628円】

① 第2660地区：29,595円 ② 第2590地区：28,432円 ③ 第2770地区：24,448円

前年度比伸び率 TOP3

① 第2660地区：115.2% ② 第2790地区：111.4% ③ 第2620地区：109.3%

3 理事会開催 — 前年度と同様の 940 人採用 —

6 月 1 日、第 50 回理事会が都内会場にて開催され、全国から理事 29 人、監事 2 人が出席しました。今回の理事会では、議長の若林紀男理事長の進行の下、最初に日本人海外留学支援検討タスクフォース、中長期ビジョン検討タスクフォースの両座長から最終報告がありました。主な議案は、2027 学年度奨学生採用数、2027 学年度募集要項、2026 年度事業計画案、「公益目的

事業の種類及び内容」の変更、資産運用方針案、収支予算案などが審議され、各担当理事、事務局長からの提案説明を経て、原案通り承認されました。これにより、2027 学年度の奨学生採用数は、前年度と同じ 940 人（枠）とすることなどが決定しました。また、「日本人支援の方向性の件」は活発な意見交換が行われ、次回理事会で継続審議することとなりました。

4 第 2 回 次期地区米山奨学委員長セミナー開催

6 月 2 日、2026-27 年度地区米山記念奨学委員長を対象とする第 2 回セミナーを都内会場で開催しました。

午前の部は、若林紀男理事長の挨拶から始まり、井原實副理事長の講話の後、学務関連について事務局から説明を実施しました。その後、第 2550 地区田島良久委員長から危機管理について事例を発表いただき、事務局から表彰制度

一部改定のお知らせについてご案内しました。午後の部では、事務局から広報・学友関連について説明を行った後、4 グループに分かれ、「より魅力的な奨学金制度にするには」という共通テーマでディスカッションと各グループからの報告が行われ、質疑応答を経て、神野重行常務理事の講評で締めくくられました。

5 スリランカに届いた「日本の袋麺」で町が熱狂

スリランカ米山学友会創立 10 周年記念式典を翌日に控えた 5 月 31 日、北西部にある小さな町、カッカパリヤでは心温まる交流イベントが行われました。

会場は、米山学友のスチッタ グナセカラさん（第 2 代よねやま親善大使／2720Japan O.K. ロータリーE クラブ会員）が経営する日本語学校です。同校は 2009 年に設立され、これまでに 500 人以上が日本語を学び、両国をつなぐ架け橋として歩みを重ねています。

今回、同校の 31 期生が「日本のラーメンをスリランカで振る舞いたい」と発案。第 2720 地区のロータリー関係者や、当財団の大久保章宏常務理事が手分けをして袋麺 500 食・割り箸 500



膳を現地へ届けました。

当日は炎天下の中、3 時間以上の待機列ができるほどの人気ぶりで、あまりの反響に紙の器が不足する場面もありましたが、最終的には約 5,000 人に提供することができました。

立ち会った大久保常務理事は「日本では当たり前にある袋麺が、これほどの感動を生む光景を目の当たりにし、ロータリー活動の意義をあらためて実感した」と振り返ります。来年の目標は 10,000 人とのことで、今後の広がりが楽しみです。



配布を待つ長蛇の列